



チームを組む医師、看護師、 他職種や一般の方からのお言葉

「やまおか在宅クリニック3周年を記念して」「開院3周年おめでとうございます」

- 病院医師 大分県立病院 緩和ケア室長 赤嶺 晋治
- 病院医療連携室 大分市医師会立アルメイダ病院 医療連携室 副看護部長 植木 光代
- 訪問看護ステーション 大分赤十字訪問看護ステーション 課長 生野 秀子
..... 大分豊寿苑訪問看護ステーション 佐々木 真理子
..... 訪問看護ステーション メイプル 所長 松本 和美
- 大分県看護協会 大分県看護協会 研修部長 河野 智美
- 薬剤師 ブンゴヤ薬局東大道店 管理薬剤師 平田 博路
- ケアマネジャー(介護支援専門員) ... 介護福祉支援センター富士見が丘 代表 古賀 周一郎
..... 田室ケアプランセンターいきいき 安東 朋子
- 一般の方 「結婚式」 大分メノナイトキリスト教会 牧師 佐々木 淳二
..... 「やまおか在宅クリニック開院3周年に寄せて」
大分、生と死を考える会事務局長 小野寺 勉



— 病院の医師から —

大分県立病院

緩和ケア室長 赤嶺 晋治



山岡先生、3周年おめでとうございます。

先生は、8年前、ばりばりの胸部外科医から、断腸の思いでメスを置き、大分県の緩和ケアに身を投じたことと思います。その後、大分ゆふみ病院での経験から、在宅ホスピスの必要性を痛感し、開業されたことでしょうか。

先生もここまで、患者さんが増えるとは予想されていなかったのではありませんか？ おそらく、患者さんはやはり最後は自宅で最後を迎えたいという思いがあるのだと思います。どちらかという、家族はいざとなったらどうしたらいいのかわからないという不安が一番ではないかと思えます。そのようなご家族に、死を迎えるにあたっての不安に対する教育が重要であることを先生は指摘されていました。核家族化により、死の場面に立ち会うことがなくなったのも一因でしょうか？

私も呼吸器外科医として肺がんの手術、再発治療を行っていますが、がん死亡の第一位である肺がん治療に当たり、緩和の必要性を痛感し、実践をしています。最近肺がんの治療において、早期からの緩和ケアの介入、全人的苦痛に対する緩和ケアを並行して行うことで延命になることが証明されました。従って、がん治療の早期からきちんと告知を行って、緩和ケアを実践する必要性があり、緩和ケアの意義を医療者のみならず、もっと国民全体に啓発する必要性を感じています。

大分県はまだまだ在宅緩和ケアが遅れており、先生が中心となって、患者家族が望んだところで最後を迎えられるように、大分県全体をホスピスにしていきたいと思えます。

先生の今後の益々の発展を祈念しております。



緩和ケアミーティング



— 病院医療連携室から —

大分市医師会立アルメイダ病院医療連携室

副看護部長 植木 光代



やまおか在宅クリニック開院3周年おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

3年前、山岡先生が大分のホスピスの先駆けになると大分県で初めての在宅ホスピス緩和ケア専門クリニックを開院された時、在宅ケアを希望される患者さん、ご家族が待ち望んでいたことが実現したのだと感激したのを思い出します。この3年間で、在宅診療患者さんは653名、そのうち末期患者さんが全体の60%と伺い、大分市のホスピスを支えてこられた山岡先生およびやまおか在宅クリニックの皆様のパワーに改めて感動いたしました。私たちアルメイダ病院も山岡先生に在宅診療の患者さんをお願いすることが多く、皆様にはいつも大変お世話になっており感謝申し上げます。

アルメイダ病院は平成22年にがん拠点病院となり、今年4月からは緩和ケア病棟が開設し、緩和ケア医師の指導の下に緩和ケアに積極的に取り組んでいます。私は医療連携室で退院調整看護師として、看護師3名、ソーシャルワーカー、事務職他の多職種で退院調整に取り組んでいます。これまで様々な環境や病態の異なる患者さんの在宅支援を行ってきましたが、在宅移行できてよかったという思いと、もっと他にいい方法があったのではないかなど多くの反省をしながらやってきました。なかには、準備が整わないまま山岡先生に訪問診療をお願いする患者さんもいらっしゃいますが、そういうときも快く引き受けていただき大変助かっています。また、患者さんやご家族から「家に帰って、痛くなったら、悪くなったらどうしよう」という言葉が聞かれます。そういった時に、やまおか在宅クリニックの24時間訪問診療・緩和ケアの説明をさせていただき、訪問診療をお願いすることで患者さん、ご家族、私達医療者も心強く安心して退院していただくことができます。

今後も、患者さんやご家族の思いを大切に、在宅療養を希望される患者さんやご家族が「家で過ごせてよかった」と言っていただけのように、他施設の方々に相談、協力をお願いしながら退院調整に取り組んでいきたいと考えています。

これからもよろしく願いいたします。





— 訪問看護ステーションから ① —

大分赤十字訪問看護ステーション

課長 生野 秀子



この度はクリニック開院3周年、大分赤十字訪問看護ステーションを代表いたしまして心からお祝い申し上げます。

山岡先生、安土師長さんはじめスタッフの皆様は「大分市全体をホスピスに！」の理念そのままに、この3年間全力で明るく、生き生きと在宅医療に邁進しておられています。当訪問看護ステーション一同はそんなやまおか在宅クリニックの皆様からご指導を受けて、多くの方々に安らかな看取りのケアを提供することができました。あらためてお礼を申し上げます。

山岡先生は急性期病院の第一線で外科医をされていた日々、ホスピス病院での経験を結集して在宅でのがん緩和ケアに取り組んでおられています。当訪問看護ステーションのがん終末期の利用者さんとご家族はがんの告知、手術、がん化学療法、放射線治療等、長く辛い経験をされてきた方々がほとんどです。利用者さんは山岡先生がこの辛さを医師の立場から肌で理解していることを感じ、在宅での看取りを受けいれることができたと思っています。私達も山岡先生の在宅緩和ケアに対しての真摯な姿、ピュアな感性に尊敬の念と大きな信頼を寄せています。山岡先生は照れ屋さんで自慢はおろかご自分のことも多くは語りませんし、私もいつも顔を合わせているのであらためて言葉にするのは照れるのですがいつも感じているところです。

私達も微力ですが一緒に大分市の「在宅ホスピス」の確立に力を合わせていく所存です。これからも忌憚なくご指導をお願いします。

山岡先生、スタッフの皆様どうかご自愛の上、ますますのご活躍をご祈念申し上げます。



日赤病院でのカンファレンス





— 訪問看護ステーションから ② —

社会医療法人敬和会
大分豊寿苑訪問看護ステーション

佐々木 真理子



やまおか在宅クリニックが開院して、「大分市の在宅医療が変わった！！」と感じているのは私だけでしょうか。いえいえ、山岡医師とタッグを組んだ訪問看護師等は皆、それを実感していると確信しています。山岡先生は24時間稼働している訪問看護師をいつでも、どんな時でも支えてくれます。クリニックのスタッフの皆さんは私たちが円滑に活動できるように環境を整えてくれます。支えてくれるという安心感があるからこそ、看護師が自信を持って看護活動ができると感じています。このように在宅医療の基盤が整うと、患者さんや家族が望む療養の場を自由に選択できますし、自分が大切にしているものにじっくりと向き合えようと考えます。

泣いたり、笑ったり、怒ったり？・・・山岡先生の診療は嵐のごとくやってきます。この人情あふれる診療を心待ちにしているのは、患者さん・家族だけではありません。療養を支える様々な職種の方もつつい山岡マジックに魅了されてしまうのです。山岡先生の「わかった！大丈夫！」の言葉が後押しとなり、そこには自分の職能を全うさせられてしまう？不思議な力が存在しているのです。

人とのつながりの中から素敵な感情が生まれ、患者さんの生き様に感銘を受け、そんな魅力ある医療の現場で感動を共有できていることに幸せを感じております。

山岡先生、スタッフの皆さんどうぞお体に気をつけて・・・これからも私たちを支えてください！！



在宅患者さんの誕生日を祝う！





— 訪問看護ステーションから ③ —

訪問看護ステーションメイプル

所長 松本 和美



拝復

時下ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。さてこの度貴院におかれましてはめでたく開院3周年を迎えられましたこと心よりお祝い申し上げます。

ゆふみ病院の院長として勤務されていたころ、約5年前になるでしょうか、偶然先生の患者さんの訪問看護を行ったことが初めての出会いでしたね。

こんなに熱い思いを在宅に馳せている医師とは、出会ったことがなかったので、当時の印象としてもっと一緒に仕事ができたらなあと思っていました。

私が訪問看護ステーションメイプルを開所した半年後、先生から在宅専門のクリニックを開くと聞き、これでまた、一緒に仕事ができる、在宅で苦しむ患者、家族が救われると万歳して喜びました。

それからは、多くの患者さんとの出会いと御縁をいただいています。私たちは患者さんを大切にしている先生を尊敬の念を持って大好きです。昼夜関係なく働く姿をみて、こんな医者、全国どこにもいないよね～的な思いをいつも抱いています。さらに、終末を迎える患者家族の対応をみていますと、先生泣かせるんじゃ～よ、もう。と心の中で思いながら涙してしまいます。

今後もキャッチフレーズを基に頑張っていられると思います。当ステーションも同じ思いであります。

だから先生、スタッフのみな様、健康で元気でいてくれないと困ります。わたしも負けずに元気でいます。これからも公私共にお世話になりますが、よろしく願いいたします。

この度は誠にありがとうございました。

敬具

平成24年8月吉日





— 大分県看護協会から —

大分県看護協会

研修部長 河野 智美



「やまおか在宅クリニック」が、開院3周年を迎えるにあたり心からお慶び申し上げます。

振り返ってみますとこの3年間で、大分県内での在宅医療は大きく前進したと実感しています。その原動力となったのが、『大分県全体をホスピスに！』をキャッチフレーズに在宅医療を推進された「やまおか在宅クリニック」の存在であると思われます。

さて、大分県看護協会では訪問看護師の質の向上や訪問看護の推進に向けた取り組みを行っています。県下には80ヶ所の訪問看護ステーションがあり、約316.3名（常勤換算）が訪問看護師として働いています。

この訪問看護の分野で、「やまおか在宅クリニック」は訪問看護師の質の向上に大きな役割を担って頂いています。

1つは、「やまおか在宅クリニック」が大分県内25ヶ所もの訪問看護ステーションと連携し在宅医療を行っていることです。日々60名の訪問看護師が共に働き、多くの看取りや医療機器を装着した患者の看護を経験する機会を得ました。その結果、診療の補助業務が拡大し、多くの医療依存度の高い利用者の方への訪問看護の提供が出来るようになりました。

2つめは、大分県看護協会の訪問看護関連の研修講師として、携わって頂いていることです。平成21年7月から24年7月までの3年間で、「ターミナル期後期から臨死期の対応」などの講義を14回、235名の訪問看護師並びに病院に勤める看護師が受講しています。在宅での事例をふんだんに取り入れた講義は人気講座のひとつで、定員超過することもあり、嬉しい悲鳴を上げているところです。

少子高齢化社会の到来に向け、在宅医療はますます重要になってきています。心身の状態が変化しても、住む場所を変えることなく地域のサービスを組み合わせることで住み慣れた在宅生活を継続できる地域包括ケアシステムは今後ますます重要となると思われます。今後は訪問看護師が地域でリーダーシップを発揮できるように、大分県看護協会としても支援して行きたいと思っています。

訪問看護のみならず、多方面から大分県の在宅医療の発展推進にまい進される「やまおか在宅クリニック」の山岡先生、他のスタッフの方々のご健勝とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



研修名：在宅の看護実践能力を高める講習会
テーマ：口腔ケア
講師：やまおか在宅クリニック
緩和ケア認定看護師 木野村 悦子先生



— 調剤薬局の薬剤師から —

ブンゴヤ薬局東大道店

管理薬剤師 平田 博路



山岡先生並びに、「やまおか在宅クリニック」のスタッフの皆様3周年記念おめでとうございます。

平成21年7月に開院され時間の流れの速さに驚かされます。

当初、山岡先生から在宅医療・緩和医療の「いろは」から御教授頂き毎日が勉強の数々でした。(現在も進行形です)

この数年で在宅医療の重要性が増し、国民のニーズも飛躍し今後、在宅で治療を望まれる患者さんがさらに増えてくると思われます。

実際、大分市での在宅医療は先生の御活躍また講演会活動等で周知されつつあると考えます。

昨年の9月には山岡先生の監修の基九州在宅医療推進フォーラム九州ブロック会にて学会発表をさせて頂きました。

私共も山岡先生の処方される薬を患者様へ服薬指導し様々な経験を積む事によってさらに、より良い医療に貢献致したいと思っている所存です。

話を若干、薬剤師に振り向けると開局薬剤師は、内服薬の調剤については日常業務なので、当たり前の事ですが在宅医療では、注射調剤が絡んで参ります。クリーンベンチ内でのIVH調剤や持続皮下注の調剤等は病院経験のある薬剤師は経験済みと思われませんが開局薬剤師は経験を持った方があまり居ないのが現状です。

ガン末期の患者様に接するとペインコントロールで麻薬を使用し内服や外用の他持続注射に遭遇する事も少なく有りません。

在宅医療では麻薬をはじめ処方薬の一包化等により患者様にとって安全かつ簡便な服薬支援に薬剤師の参加が求められています。

当薬局も社内の研修会では塩酸モルヒネの持続皮下注を調整する手技をビデオに撮り研修に生かされています。

また、症例報告も定期的に行い服薬指導の研鑽を行っています。

本年の4月以降の医療改訂によって薬剤師の意識が在宅医療に目を向けられつつ有ります。

我々、薬剤師も質の高い在宅医療に知識・経験を積んで行きたいと思っている所存です。

山岡先生並びにクリニックの御活躍・御発展を心より願っています。

今後とも宜しくお願い致します。



在宅で薬剤指導を行う平田先生



— ケアマネジャーさんから ① —

介護福祉支援センター富士見が丘

代表（介護支援専門員） 古賀 周一郎



「やまおか在宅クリニックがあるから安心してます」

「夜間、体調が悪くなりクリニックに電話したら、直接山岡先生が電話に出ていただき、とても安心しました」

このような言葉を、しばしば患者様やその家族から伺います。

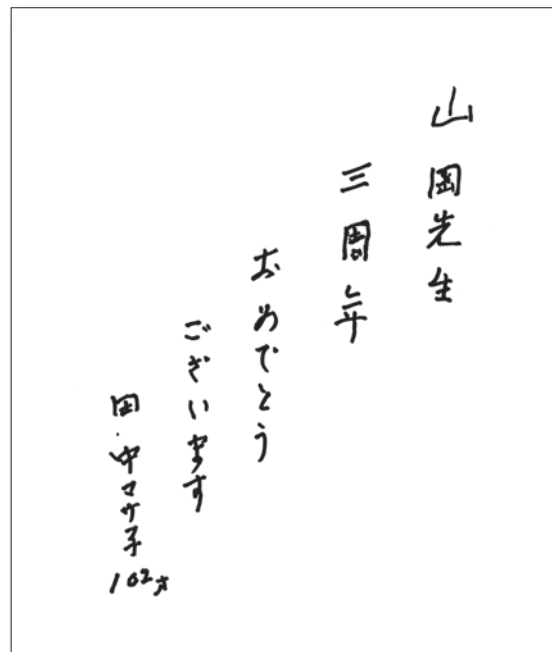
やまおか在宅クリニックが開院して3年、一貫して実践して来られた、「“住み慣れた家で、その人らしく、今を生きる”患者と家族を支えます」という理念と実践は、着実に地域に根付き、患者様の安心へ繋がっていることを、私たちは日々の業務の中で実感しています。

特に「24時間365日」の訪問診療体制は、様々な疾患や事情から在宅療養・介護を行なっている患者さん本人やその家族にとっては、この上なく心強いことと思います。

また、私は、そのような安心感の最大の要因のひとつが、山岡先生をはじめとする、スタッフの皆さんの明るく優しい笑顔や雰囲気にあると思っています。

多くの患者さんへの訪問診療は多忙を極めることと思いますが、いつも温かな雰囲気をもちつつ、ご指導をいただいていることは、患者さんのみならず、介護支援専門員としての立場からも、本当にありがたく感じています。

3周年を心よりお祝いするとともに、今後の益々の発展を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



102才の方からのメッセージ



— ケアマネジャーさんから ② —



田舎ケアプランセンターいきいき

介護支援専門員 安東 朋子

やまおか在宅クリニック開院3周年 おめでとうございます。

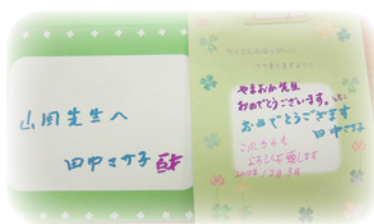
山岡先生・クリニックの皆様には平素より大変お世話になっております。

3年前、独居で下咽頭癌末期の利用者さんと一緒に、安心して入院できる病院を求め山岡先生へ相談に行った際、「自宅だろうが施設だろうが、私は何処へでも診察に行きますよ！」と笑顔で仰って頂きご本人・ご家族と共に安堵したことが今でも鮮明に思い出されます。その後、1か月間ほど自宅で独居生活を再開。夜間せん妄や・不穏・・・等様々な課題が出てきましたが、山岡先生のご指導の下、訪問看護の皆さんと何度も相談を重ねながらご本人の不安や苦痛を和らげていくことを目の当たりにし、在宅医療の大切さ・重要性を実感しました。そんな折に「やまおか在宅クリニック開院」の話を伺い、このまま在宅での療養生活を続けることに対する多大な不安が吹き飛び、「安心感や希望が持てたよ・・・」とのご本人の言葉が印象的でした。

他にも「最期は自宅で穏やかに過ごしたい・・・」と望まれる利用者さんのご意向を受け止め親切・丁寧に接している、やまおか在宅クリニックの皆様に対し尊敬の念でいっぱいです。私も微力ながら関わらせて頂くことで、「命の尊さ」「家族への感謝」「人が人を思う大切さ」など様々なことを学ばせて頂いております。

素敵な御縁から、現在102歳の女性のご利用者さんを担当させて頂いています。リハビリ目的で書いた山岡先生へのバースデイカードが恒例となり、毎年「もうそんな時期なのね。今年は何て書こうかしら・・・」と少し照れながらペンや筆を持つ姿が、とても素敵で微笑ましいです。山岡先生に日頃の感謝の気持ちを伝えたい・・・との思いが伝わってくる瞬間です。

在宅診療を必要とされている方々は大勢いらっしゃるかと存じます。一人でも多くの方々に山岡先生・クリニックの皆様の笑顔をお届けできますよう、ご健勝とご自愛をお祈りいたします。



100歳の時Tさんから院長へのバースデイカード



102歳の患者さんの誕生日を祝う



— 一般の方から —
「結婚式」

大分メソナイトキリスト教会

牧師 佐々木 淳二



山岡憲夫先生、やまおか在宅クリニック・スタッフの皆様、3周年、真におめでとうございます。

私はキリスト教会の牧師をしています。毎日曜日、教会で礼拝を献げることは私の大切な務めですが、それと同時に結婚式の司式も大切な務めです。新郎、新婦、ご家族の皆様にとりまして、結婚式は最高に晴れがましい時であることでしょう。そのような喜びの席に預かれることは、私にとりまして大きな喜びです。

しかし、山岡先生からお電話があり、「牧師さん、結婚式をお願いしたいのですが」と言われると、緊張が走ります。

先日もそうでした。「今、担当している患者さんは末期がんと戦っています。本当に厳しい戦いですが、彼女は頑張っているのです。僕は、彼女の頑張りに応えたい。

彼女には、とてもチャーミングな娘さんがいます。そして娘さんには素敵な彼がいます。二人は結婚の約束をしているのですが、式はまだのようです。そこで牧師さん、ぜひともお母さんに、娘さんの結婚式を見せてあげたいのです。力を貸してはいただけませんか」と、先生は言ったのです。

平成24年6月24日、老人保健施設の食堂をきれいに飾り、結婚式が始まりました。一番前の席にはベッドが用意され、きれいにお化粧をしたお母さんが横になっています。

ウェディングドレスを着た美しい娘さんと、ハンサムで優しい彼を見守る、お母さんの、はち切れんばかりの笑顔。それがどんなに素敵な笑顔であったか、どんなに素晴らしい結婚式になったか、分かって頂けますでしょうか。

約一週間の準備で結婚式を行う。施設の食堂で行う。当初それは不可能のように思いました。けれども、山岡先生の情熱と強いリーダーシップ、スタッフの皆さんの献身的なお働きが、それを可能にしたのです。「すごいクリニックがあるものだ」と、本当に驚きました。

しかし、あれから二ヶ月が過ぎた今日、この原稿を書くにあたって、私が思ったことは、次のことです。

「患者さんの声なき声を聞き、患者さんの笑顔のためにはどんなことでもする。そのような覚悟を決めた医師と行動力のあるスタッフがいるクリニックがある。しかもそのクリニックはこの街にある。大分の県民は、ただ驚きましたと、それだけではいけない。それは実に心丈夫なことであり、まことに心から感謝すべきことなのだ」と。





— 一般の方から —

「やまおか在宅クリニック 開院3周年に寄せて」

大分、生と死を考える会

事務局長 小野寺 勉



やまおか在宅クリニック開院3周年、誠におめでとうございます。

今から3年前の7月、大分・生と死を考える会スタッフ一同で在宅専門クリニックの開院を祝い、祝電を送らせていただいて早や3年。

山岡院長の開院の理由は「住み慣れた我が家で過ごしたいという患者さんの最後の願いをかなえてあげたい。」地域の看護力・介護力を含めた社会資源と連携し、かなりの部分で病院と同じような診療やケアが出来る事から、自宅が病院になるとの発想で、大分市（大分県）全体をホスピスにしたい。がんだけでなく、さまざまな病気で苦しんでいる患者とその家族を救いたいとの理念の実行は、この3年間の診療実績を見れば一目瞭然です。

一県民として、日本の死の看取りに大きな変化を感じるのは、病院死から自宅死への流れです。超高齢化時代の中で、どこで死を迎えるべきかを一人一人が問われる時代です。

人々の最後の迎え方としての心の変化は感じませんが、国民皆保険制度が制度疲労を抱え、制度運用として病院完結は転換期を迎えています。又、国民感情として高齢期における高度医療提供に疑問を投げかける声も高まっています。

翻って、それでは本当に在宅で看取れるか。患者・家族・医療者にとって保障されるものは存在するのか？。

やまおか在宅クリニックは、この3年間の実績をもって証明してくれました。一方で、やまおか在宅クリニックは在宅治療・在宅緩和ケア推進の為に、多面的な取り組みを推進して参りました。それは“大分市（大分県）全体をホスピスに”を実現する基礎造りに汗を流している証です。

在宅医療・在宅緩和ケア事業とは何かと大変かと思えます。特に大分県初ですから殊更です。“大分市（大分県）全体をホスピスに”の実現を目指す山岡院長の思いに賛同し、それらを支える素晴らしいスタッフの働きに感謝しつつ、微力ながら県民の一人として又、大分・生と死を考える会会員の一人としてエールを送り続けます。

重ねてやまおか在宅クリニック開院3周年を心からお祝い申し上げます。



大分・生と死を考える会のメンバーと